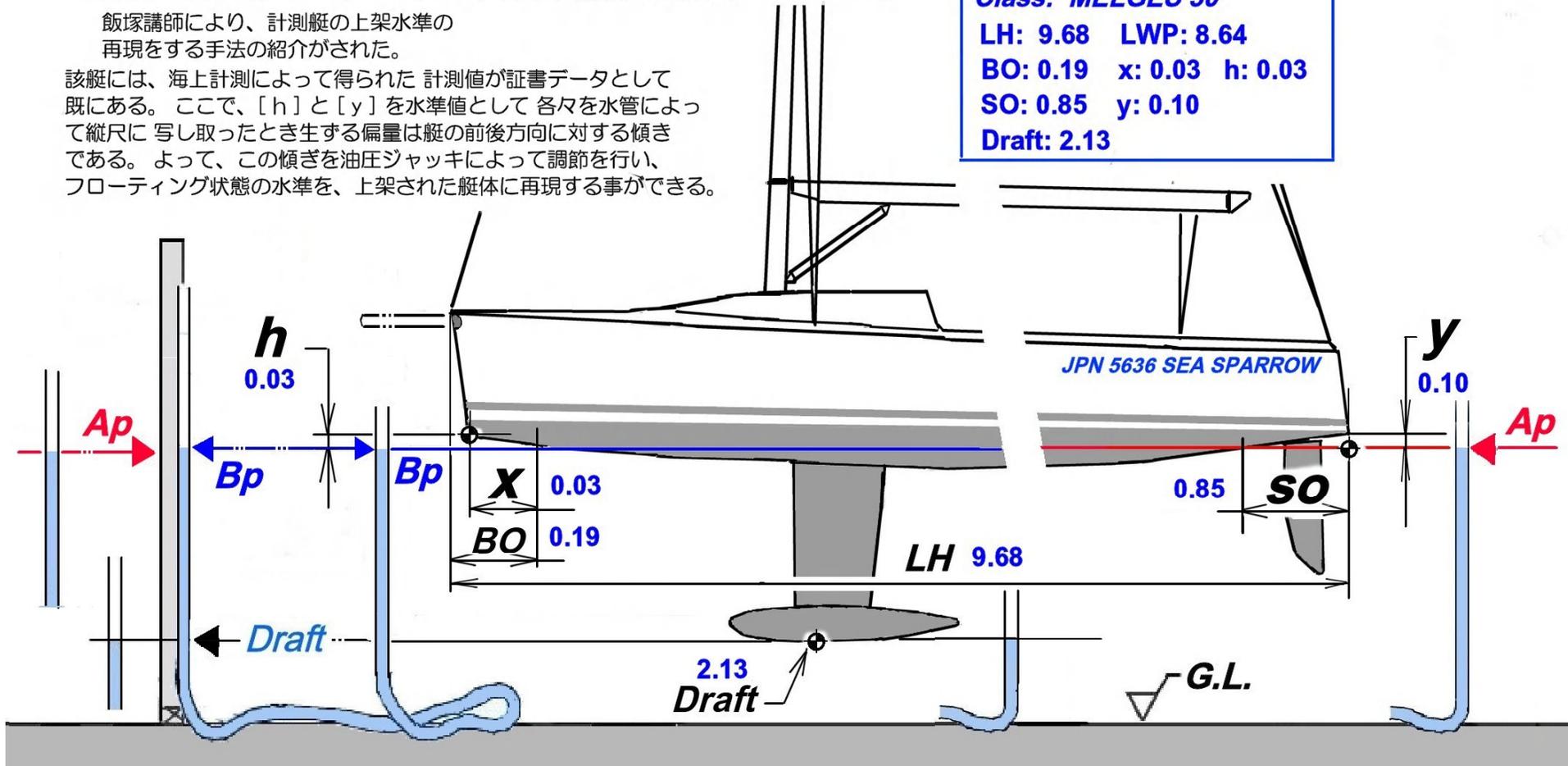


長崎・サンセットマリーナにおける水管計測の実演 (2015/01/30)

飯塚講師により、計測艇の上架水準の再現をする手法の紹介がされた。

該艇には、海上計測によって得られた計測値が証書データとして既にある。ここで、[h]と[y]を水準値として各々を水管によって縦尺に写し取ったとき生ずる偏量は艇の前後方向に対する傾きである。よって、この傾きを油圧ジャッキによって調節を行い、フローティング状態の水準を、上架された艇体に再現する事ができる。

Class: MELGÈS 30			
LH: 9.68	LWP: 8.64		
BO: 0.19	x: 0.03	h: 0.03	
SO: 0.85	y: 0.10		
Draft: 2.13			



- なお、講師のアドバイスとして、海上計測時には、水線を直接、ハルやラダーにマーキング（冗印）を付けておけば それを基準に傾きを調節する手段が、より効率的であるとの付言があった。
- IRC 委員長からの突然指名による、にわか仕立ての臨時講師として、お役に立てなかったと自戒しておりますが、受講（見学者）の大多数の方々には、上記の実演がなされたことを、ご理解されておられるのでしょうか？（念のため、参考まで～ 備忘録として留めおきます）

(2015/02/07 とみかわ)